

2014年度 学部(2014年度以降入学生)シラバス②

音楽文化教育学科

PDF閲覧ソフトの検索機能で科目名を検索してください

※担当教員名での検索の場合、全クラス共通シラバスが検索できません

例) キーを押しながら キーを押す

ナンバリング	SCS001N		
科目名	音楽ICT演習 I		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	O1
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

コンピュータを使って音楽情報を処理するためのリテラシーを修得する。本科目では特に、次の項目について修得することを目標とする。

- (1)文章を論理的に構成して、レポートをまとめることができる。表や図を作成して、プレゼンテーションやポスター用の資料が作成できる。
- (2)各資料をスライドに統合して、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
- (3)情報技術の活用や情報モラル教育について議論を行い、ICT教育について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

1. 授業のガイダンス - なぜコンピュータを使うのか、デジタル情報技術の変遷
2. コンピュータのしくみを知る(1) - アーキテクチャ、OS、インタフェース
3. コンピュータのしくみを知る(2) - ファイル、様々なデータ表現
4. 文章を作成する(1) - 文章作成ソフトで文章の“意味”を表現する
5. 文章を作成する(2) - 文章作成ソフトで文章の“見え方”を表現する
6. 図表を作成する(1) - ラスターグラフィックスとベクターグラフィックス
7. 図表を作成する(2) - 表計算ソフトによる数値情報の視覚化
8. 情報モラル教育について学ぶ - 情報倫理、著作権、セキュリティ、ソーシャルネットワーク
9. 情報技術の授業への活用について議論する - ICT教育
10. テーマを決めてレポートを作成する
11. プレゼンテーションを作成する(1) - スライドを構成する
12. プレゼンテーションを作成する(2) - アニメーション機能を利用する
13. より良いデザインにする - 視覚情報のユニバーサルデザイン
14. プレゼンテーション発表を行う(1)
15. プレゼンテーション発表を行う(2)

◆準備学習の内容◆

技能習得のためには、学習した内容を日頃から実践的に活用していくことが望まれる。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

学生は授業内でプレゼンテーションを行い、小レポートを提出する。授業内提出物、発表、及び演習への取り組みを総合的に考慮して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

無し

◆参考図書◆

榎本 竜二. (2013). 情報機器の操作：教員のためのICT活用法. 実教出版.
赤堀 侃司. (2013). 教育工学への招待. ジャムハウス.

◆留意事項◆

特に無し

ナンバリング	SCS001N		
科目名	音楽ICT演習 I		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	O2
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

コンピュータを使って音楽情報を処理するためのリテラシーを修得する。本科目では特に、次の項目について修得することを目標とする。

- (1)文章を論理的に構成して、レポートをまとめることができる。表や図を作成して、プレゼンテーションやポスター用の資料が作成できる。
- (2)各資料をスライドに統合して、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
- (3)情報技術の活用や情報モラル教育について議論を行い、ICT教育について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

1. 授業のガイダンス - なぜコンピュータを使うのか、デジタル情報技術の変遷
2. コンピュータのしくみを知る(1) - アーキテクチャ、OS、インタフェース
3. コンピュータのしくみを知る(2) - ファイル、様々なデータ表現
4. 文章を作成する(1) - 文章作成ソフトで文章の“意味”を表現する
5. 文章を作成する(2) - 文章作成ソフトで文章の“見え方”を表現する
6. 図表を作成する(1) - ラスターグラフィックスとベクターグラフィックス
7. 図表を作成する(2) - 表計算ソフトによる数値情報の視覚化
8. 情報モラル教育について学ぶ - 情報倫理、著作権、セキュリティ、ソーシャルネットワーク
9. 情報技術の授業への活用について議論する - ICT教育
10. テーマを決めてレポートを作成する
11. プレゼンテーションを作成する(1) - スライドを構成する
12. プレゼンテーションを作成する(2) - アニメーション機能を利用する
13. より良いデザインにする - 視覚情報のユニバーサルデザイン
14. プレゼンテーション発表を行う(1)
15. プレゼンテーション発表を行う(2)

◆準備学習の内容◆

技能習得のためには、学習した内容を日頃から実践的に活用していくことが望まれる。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

学生は授業内でプレゼンテーションを行い、小レポートを提出する。授業内提出物、発表、及び演習への取り組みを総合的に考慮して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

無し

◆参考図書◆

榎本 竜二. (2013). 情報機器の操作：教員のためのICT活用法. 実教出版.
赤堀 侃司. (2013). 教育工学への招待. ジャムハウス.

◆留意事項◆

特に無し

ナンバリング	SCS001N		
科目名	音楽ICT演習 I		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	O3
講義室	2-37	開講学期	前期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

コンピュータを使って音楽情報を処理するためのリテラシーを修得する。本科目では特に、次の項目について修得することを目標とする。

- (1)文章を論理的に構成して、レポートをまとめることができる。表や図を作成して、プレゼンテーションやポスター用の資料が作成できる。
- (2)各資料をスライドに統合して、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
- (3)情報技術の活用や情報モラル教育について議論を行い、ICT教育について理解を深める。

◆授業内容・計画◆

1. 授業のガイダンス - なぜコンピュータを使うのか、デジタル情報技術の変遷
2. コンピュータのしくみを知る(1) - アーキテクチャ、OS、インタフェース
3. コンピュータのしくみを知る(2) - ファイル、様々なデータ表現
4. 文章を作成する(1) - 文章作成ソフトで文章の“意味”を表現する
5. 文章を作成する(2) - 文章作成ソフトで文章の“見え方”を表現する
6. 図表を作成する(1) - ラスターグラフィックスとベクターグラフィックス
7. 図表を作成する(2) - 表計算ソフトによる数値情報の視覚化
8. 情報モラル教育について学ぶ - 情報倫理、著作権、セキュリティ、ソーシャルネットワーク
9. 情報技術の授業への活用について議論する - ICT教育
10. テーマを決めてレポートを作成する
11. プレゼンテーションを作成する(1) - スライドを構成する
12. プレゼンテーションを作成する(2) - アニメーション機能を利用する
13. より良いデザインにする - 視覚情報のユニバーサルデザイン
14. プレゼンテーション発表を行う(1)
15. プレゼンテーション発表を行う(2)

◆準備学習の内容◆

技能習得のためには、学習した内容を日頃から実践的に活用していくことが望まれる。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

学生は授業内でプレゼンテーションを行い、小レポートを提出する。授業内提出物、発表、及び演習への取り組みを総合的に考慮して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

無し

◆参考図書◆

榎本 竜二. (2013). 情報機器の操作：教員のためのICT活用法. 実教出版.
赤堀 侃司. (2013). 教育工学への招待. ジャムハウス.

◆留意事項◆

特に無し

ナンバリング	SCS002N		
科目名	音楽ICT演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	01
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

コンピュータを使って音楽情報を処理するためのリテラシーを修得する。本科目では特に、次の項目について修得することを目標とする。

- (1)各種ソフトを利用して、譜例や音響資料を作成することができる。
- (2)ウェブサイトを作成し、これらの図表資料や音響資料をインターネット上で共有できる。各資料を統合して、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
- (3)音楽情報処理技術を教育や研究など、個人の実践の場に合わせて活用することができる。

◆授業内容・計画◆

1. 授業のガイダンス - マルチメディア技術の変遷
2. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(1) - 基本操作
3. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(2) - 楽譜情報の入力
4. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(3) - 画像・紙媒体・音声ファイルへの出力
5. 音をデジタル情報として扱うしくみを知る
6. 録音・編集ソフトを使用した音響資料の作成(1) - 録音と簡単な打ち込み
7. 録音・編集ソフトを使用した音響資料の作成(2) - 加工と出力
8. 音楽情報処理技術の潮流と未来像
9. インターネット上で共有する(1) - ウェブサイトの作成
10. インターネット上で共有する(2) - メディア共有サービスの利用
11. 音楽情報処理技術の授業への活用について議論する - 音楽とICT活用
12. スライドと音響資料を統合する
13. プレゼンテーション発表を行う(1)
14. プレゼンテーション発表を行う(2)
15. 講評とまとめ

◆準備学習の内容◆

技能習得のためには、学習した内容を日頃から実践的に活用していくことが望まれる。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

学生は授業内でプレゼンテーションを行う。授業内提出物、発表、及び演習への取り組みを総合的に考慮して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

無し

◆参考図書◆

榎本 竜二.(2013). 情報機器の操作：教員のためのICT活用法. 実教出版.
赤堀 侃司.(2013). 教育工学への招待. ジャムハウス.

◆留意事項◆

特に無し

ナンバリング	SCS002N		
科目名	音楽ICT演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	02
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

コンピュータを使って音楽情報を処理するためのリテラシーを修得する。本科目では特に、次の項目について修得することを目標とする。

- (1)各種ソフトを利用して、譜例や音響資料を作成することができる。
- (2)ウェブサイトを作成し、これらの図表資料や音響資料をインターネット上で共有できる。各資料を統合して、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
- (3)音楽情報処理技術を教育や研究など、個人の実践の場に合わせて活用することができる。

◆授業内容・計画◆

1. 授業のガイダンス - マルチメディア技術の変遷
2. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(1) - 基本操作
3. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(2) - 楽譜情報の入力
4. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(3) - 画像・紙媒体・音声ファイルへの出力
5. 音をデジタル情報として扱うしくみを知る
6. 録音・編集ソフトを使用した音響資料の作成(1) - 録音と簡単な打ち込み
7. 録音・編集ソフトを使用した音響資料の作成(2) - 加工と出力
8. 音楽情報処理技術の潮流と未来像
9. インターネット上で共有する(1) - ウェブサイトの作成
10. インターネット上で共有する(2) - メディア共有サービスの利用
11. 音楽情報処理技術の授業への活用について議論する - 音楽とICT活用
12. スライドと音響資料を統合する
13. プレゼンテーション発表を行う(1)
14. プレゼンテーション発表を行う(2)
15. 講評とまとめ

◆準備学習の内容◆

技能習得のためには、学習した内容を日頃から実践的に活用していくことが望まれる。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

学生は授業内でプレゼンテーションを行う。授業内提出物、発表、及び演習への取り組みを総合的に考慮して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

無し

◆参考図書◆

榎本 竜二.(2013). 情報機器の操作：教員のためのICT活用法. 実教出版.
赤堀 侃司.(2013). 教育工学への招待. ジャムハウス.

◆留意事項◆

特に無し

ナンバリング	SCS002N		
科目名	音楽ICT演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	濱野 峻行		
学年	1年	クラス	O3
講義室	2-37	開講学期	後期
曜日・時限	水5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

コンピュータを使って音楽情報を処理するためのリテラシーを修得する。本科目では特に、次の項目について修得することを目標とする。

- (1)各種ソフトを利用して、譜例や音響資料を作成することができる。
- (2)ウェブサイトを作成し、これらの図表資料や音響資料をインターネット上で共有できる。各資料を統合して、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。
- (3)音楽情報処理技術を教育や研究など、個人の実践の場に合わせて活用することができる。

◆授業内容・計画◆

1. 授業のガイダンス - マルチメディア技術の変遷
2. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(1) - 基本操作
3. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(2) - 楽譜情報の入力
4. 楽譜作成ソフトによる譜例の作成(3) - 画像・紙媒体・音声ファイルへの出力
5. 音をデジタル情報として扱うしくみを知る
6. 録音・編集ソフトを使用した音響資料の作成(1) - 録音と簡単な打ち込み
7. 録音・編集ソフトを使用した音響資料の作成(2) - 加工と出力
8. 音楽情報処理技術の潮流と未来像
9. インターネット上で共有する(1) - ウェブサイトの作成
10. インターネット上で共有する(2) - メディア共有サービスの利用
11. 音楽情報処理技術の授業への活用について議論する - 音楽とICT活用
12. スライドと音響資料を統合する
13. プレゼンテーション発表を行う(1)
14. プレゼンテーション発表を行う(2)
15. 講評とまとめ

◆準備学習の内容◆

技能習得のためには、学習した内容を日頃から実践的に活用していくことが望まれる。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

学生は授業内でプレゼンテーションを行う。授業内提出物、発表、及び演習への取り組みを総合的に考慮して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

無し

◆参考図書◆

榎本 竜二.(2013). 情報機器の操作：教員のためのICT活用法. 実教出版.
赤堀 侃司.(2013). 教育工学への招待. ジャムハウス.

◆留意事項◆

特に無し

ナンバリング	SCL003N		
科目名	音楽・学び・情報		
科目詳細	1A		
担当教員	久保田 慶一, 飯野 幹夫		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-311	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽に関する知識を適切に理解して、使うことができる。
- ②異なったパースペクティヴから、根拠を明示して、いろいろ意味付け(価値や重要性を見出す)を施すことができる。
- ③自身の見解を批判的にまとめることができる。

◆授業内容・計画◆

1. 音から音楽へ
2. 楽典はなぜ必要か
3. 音楽を聴くことの意味
4. 音楽を理解することの意味
5. 演奏を考える
6. 音楽と情報
7. グローバル時代の音楽情報
8. 批判的意識とは
9. 喫煙におけるダブル・バインド
10. 有用性という利口と賢慮としての知
11. 批判的意識への眼差し(1)
12. 批判的意識への眼差し(2)
13. 客観性と内面性との緊張
14. 批判的意識を妨げるものを見据える
15. まとめ

1～7と8～14は、担当教員によって、入れ代わります。

◆準備学習の内容◆

1～7: 毎授業で課せられた課題を行い、次の授業で提出する。
7～14: あらかじめ配付する教材・資料に目を通し、主旨をつかんで授業に臨むこと。また相互批評に向けて、自身の見解に異なったパースペクティヴからの練り直しを準備すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

1～7: 授業の参加状況とレポート(50%)
8～14: 試験は行わず、毎回、授業内小レポートを課し成績の評価材料にする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時、指定する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	SCL003N		
科目名	音楽・学び・情報		
科目詳細	1B		
担当教員	飯野 幹夫, 久保田 慶一		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-317	開講学期	前期
曜日・時限	木5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽に関する知識を適切に理解して、使うことができる。
- ②異なったパースペクティヴから、根拠を明示して、いろいろ意味付け(価値や重要性を見出す)を施すことができる。
- ③自身の見解を批判的にまとめることができる。

◆授業内容・計画◆

1. 音から音楽へ
2. 楽典はなぜ必要か
3. 音楽を聴くことの意味
4. 音楽を理解することの意味
5. 演奏を考える
6. 音楽と情報
7. グローバル時代の音楽情報
8. 批判的意識とは
9. 喫煙におけるダブル・バインド
10. 有用性という利口と賢慮としての知
11. 批判的意識への眼差し(1)
12. 批判的意識への眼差し(2)
13. 客観性と内面性との緊張
14. 批判的意識を妨げるものを見据える
15. まとめ

1～7と8～14は、担当教員によって、入れ代わります。

◆準備学習の内容◆

1～7: 毎授業で課せられた課題を行い、次の授業で提出する。
7～14: あらかじめ配付する教材・資料に目を通し、主旨をつかんで授業に臨むこと。また相互批評に向けて、自身の見解に異なったパースペクティヴからの練り直しを準備すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

1～7: 授業の参加状況とレポート(50%)
8～14: 試験は行わず、毎回、授業内小レポートを課し成績の評価材料にする。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし

◆参考図書◆

随時、指定する。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	SCL004N		
科目名	音楽・心・身体		
科目詳細	1A		
担当教員	塩原 麻里, 阪上 正巳		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- (1) 音楽と心の関係について理解する。
- (2) 音楽療法や病理学の方法についての知識を得る。
- (3) 音楽と身体の関係について理解する。
- (4) リトミックの体験を通して音楽表現と身体表現の関連について理解する。

- (1)(2)は阪上が担当する。
- (3)(4)は塩原が担当する。

◆授業内容・計画◆

(1)(2)

1. 心の理論と音楽(1):人間の成長と音楽
2. 心の理論と音楽(2):臨床心理学と音楽
3. 音楽療法を知る
4. 心の病を癒す音楽(1):ストレス関連障害の音楽療法
5. 心の病を癒す音楽(2):精神病圏・認知症の音楽療法
6. 心の病と創造性
7. 精神疾患と音楽家

(3)(4)

8. 音楽と身体、音楽と動き
9. サウンド・スケープと身体感覚
10. 音楽表現と身体表現
11. 音・音楽を動く(1):リズム
12. 音・音楽を動く(2):音程とフレーズ
13. 動きから音楽をつくる
14. リトミックと即興性

15. まとめ

◆準備学習の内容◆

配布された資料等は必ず事前に読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート。その他随時課題を出す。授業内発表、ディスカッションへの参加状況等、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で、随時呈示する。

◆留意事項◆

授業は2つのクラスに分かれて、各担当者により1. から7. 、8から14、という2つのシリーズで行われる。1つのクラスは、この順番通りに授業を受ける。もう1つのクラスは8. から14. を先に受講してから1. から7. の授業を受ける。

8. から14. は動きやすい、楽な服装で受講すること。

ナンバリング	SCL004N		
科目名	音楽・心・身体		
科目詳細	1B		
担当教員	阪上 正巳, 塩原 麻里		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-311	開講学期	後期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- (1) 音楽と心の関係について理解する。
- (2) 音楽療法や病理学の方法についての知識を得る。
- (3) 音楽と身体の関係について理解する。
- (4) リトミックの体験を通して音楽表現と身体表現の関連について理解する。

- (1)(2)は阪上が担当する。
- (3)(4)は塩原が担当する。

◆授業内容・計画◆

(1)(2)

1. 心の理論と音楽(1):人間の成長と音楽
2. 心の理論と音楽(2):臨床心理学と音楽
3. 音楽療法を知る
4. 心の病を癒す音楽(1):ストレス関連障害の音楽療法
5. 心の病を癒す音楽(2):精神病圏・認知症の音楽療法
6. 心の病と創造性
7. 精神疾患と音楽家

(3)(4)

8. 音楽と身体、音楽と動き
9. サウンド・スケープと身体感覚
10. 音楽表現と身体表現
11. 音・音楽を動く(1):リズム
12. 音・音楽を動く(2):音程とフレーズ
13. 動きから音楽をつくる
14. リトミックと即興性
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

配布された資料等は必ず事前に読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート。その他随時課題を出す。授業内発表、ディスカッションへの参加状況等、総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。

◆参考図書◆

授業内で、随時呈示する。

◆留意事項◆

授業は2つのクラスに分かれて、各担当者により1. から7. 、8から14、という2つのシリーズで行われる。1つのクラスは、この順番通りに授業を受ける。もう1つのクラスは8. から14. を先に受講してから1. から7. の授業を受ける。

8. から14. は動きやすい、楽な服装で受講すること。

ナンバリング	ECL001N		
科目名	幼児教育講義(保育原理)		
科目詳細			
担当教員	西原 彰宏		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-113	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

「保育」とは、子どもが一人の人間として自信を持ち、他の人々と信頼関係を築いて意欲的に自分の世界を広げていこうとする、人としての基本姿勢を培うものである。本講義では、「保育の基本」と、その中核である子ども理解、さらに「保育の歴史と現状」、「保育の計画・内容・方法」及び「保育者の専門性」と「家族援助と子育て支援」について学び、現代の子どもと保護者と共に生きる保育者となるための基礎的素養を学ぶことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回: 保育の基本(1)―「保育」とは何か
- 第2回: 保育の基本(2)―子どもの最善の利益と保育
- 第3回: 保育における子ども理解(1)―「発達」のさまざまなとらえ方
- 第4回: 保育における子ども理解(2)―行為の「意味」を探る
- 第5回: 保育の制度と現状(1)―保育所と幼稚園
- 第6回: 保育の制度と現状(2)―多様な保育ニーズへの対応
- 第7回: 保育の歴史(1)―西洋近代における教育の歴史と思想
- 第8回: 保育の歴史(2)―幼児教育施設の誕生とその後の展開
- 第9回: 保育の歴史(3)―日本の幼児教育の歴史
- 第10回: 世界の保育
- 第11回: 保育の内容と方法
- 第12回: 保育の計画と方法
- 第13回: 家族援助と子育て支援
- 第14回: 保育者の専門性
- 第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

テキストのうち、次回の講義内容と関連する部分を毎回指摘する。その部分を読み、要点を掴むとともに、自分にとっての疑問点を明らかにして講義に臨むこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み・態度、小レポート)と期末レポート

◆教科書(使用テキスト)◆

森上史朗・大豆生田 啓友 編「よくわかる保育原理」、ミネルヴァ書房
 文部科学省 編「幼稚園教育要領解説」、フレーベル館

◆参考図書◆

1. 倉橋惣三『育ての心』(上)(下) フレーベル新書 フレーベル館
2. アトム共同保育所『大人が育つ保育園』 ひとなる書房
3. E.フロム『生きるということ』 紀伊国屋書店
4. 津守真・津守房江『出会いの保育学―この子と出会ったときから―』 ななみ書房

◆留意事項◆

予習として、教科書に目を通してから授業に出席すること。
 復習として、参考図書を2冊以上読むこと。

ナンバリング	ECL001N		
科目名	幼児教育講義(保育原理)		
科目詳細			
担当教員	西原 彰宏		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-113	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

「保育」とは、子どもが一人の人間として自信を持ち、他の人々と信頼関係を築いて意欲的に自分の世界を広げていこうとする、人としての基本姿勢を培うものである。本講義では、「保育の基本」と、その中核である子ども理解、さらに「保育の歴史と現状」、「保育の計画・内容・方法」及び「保育者の専門性」と「家族援助と子育て支援」について学び、現代の子どもと保護者と共に生きる保育者となるための基礎的素養を学ぶことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回: 保育の基本(1)―「保育」とは何か
- 第2回: 保育の基本(2)―子どもの最善の利益と保育
- 第3回: 保育における子ども理解(1)―「発達」のさまざまなとらえ方
- 第4回: 保育における子ども理解(2)―行為の「意味」を探る
- 第5回: 保育の制度と現状(1)―保育所と幼稚園
- 第6回: 保育の制度と現状(2)―多様な保育ニーズへの対応
- 第7回: 保育の歴史(1)―西洋近代における教育の歴史と思想
- 第8回: 保育の歴史(2)―幼児教育施設の誕生とその後の展開
- 第9回: 保育の歴史(3)―日本の幼児教育の歴史
- 第10回: 世界の保育
- 第11回: 保育の内容と方法
- 第12回: 保育の計画と方法
- 第13回: 家族援助と子育て支援
- 第14回: 保育者の専門性
- 第15回: まとめ

◆準備学習の内容◆

テキストのうち、次回の講義内容と関連する部分を毎回指摘する。その部分を読み、要点を掴むとともに、自分にとっての疑問点を明らかにして講義に臨むこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常点(授業への取り組み・態度、小レポート)と期末レポート

◆教科書(使用テキスト)◆

森上史朗・大豆生田 啓友 編「よくわかる保育原理」、ミネルヴァ書房
 文部科学省 編「幼稚園教育要領解説」、フレーベル館

◆参考図書◆

1. 倉橋惣三『育ての心』(上)(下) フレーベル新書 フレーベル館
2. アトム共同保育所『大人が育つ保育園』 ひとなる書房
3. E.フロム『生きるということ』 紀伊国屋書店
4. 津守真・津守房江『出会いの保育学―この子と出会ったときから―』 ななみ書房

◆留意事項◆

予習として、教科書に目を通してから授業に出席すること。
 復習として、参考図書を2冊以上読むこと。

ナンバリング	ECL011N		
科目名	幼児音楽教育講義A		
科目詳細			
担当教員	板野 和彦		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

子どもたちと音楽との関わり、そして音楽教育の果たす役割などについて検討し、保育者として必要な知識および技能を身につける。授業は講義と演習を織り交ぜながら進める。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 子どもと音楽について
3. 学習指導要領「表現」における音楽の活動について
4. 幼児の音楽教育の歴史(ルソー、ペスタロッチらの理論の紹介)
5. 幼児の音楽教育の歴史(フレーベルの理論の紹介)
6. エミール・ジャック＝ダルクローズのリトミックについて
7. 子どもたちの聴音能力の伸長について(リトミックとの関連で)
8. 子どもたちのリズム感覚の伸長について(リトミックとの関連で)
9. 子どもたちの創作についての能力の伸長について(リトミックとの関連で)
10. ゾルタン・コダーイのコダーイ・メソッドについて
11. 子どもたちの歌唱能力の伸長について(コダーイ・メソッドとの関連で)
12. カール・オルフのオルフ・シュールベルクについて
13. 子どもたちの器楽的能力の伸長について(オルフのメソッドとの関連で)
14. 日本で実践されている音楽教育メソッドについて
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回それまで学習した内容に関する小テストを行うため、キーワードを中心に前回の講義の復習をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度、レポートの内容を総合的に検討して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で逐次紹介します。

◆参考図書◆

ロバート・エイブラムソン他『音楽教育メソッドの比較』全音楽譜出版社、1994年

◆留意事項◆

授業への参加態度および出席を重視します。

ナンバリング	ECL011N		
科目名	幼児音楽教育講義A		
科目詳細			
担当教員	板野 和彦		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-302	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

子どもたちと音楽との関わり、そして音楽教育の果たす役割などについて検討し、保育者として必要な知識および技能を身につける。授業は講義と演習を織り交ぜながら進める。

◆授業内容・計画◆

1. ガイダンス
2. 子どもと音楽について
3. 学習指導要領「表現」における音楽の活動について
4. 幼児の音楽教育の歴史(ルソー、ペスタロッチらの理論の紹介)
5. 幼児の音楽教育の歴史(フレーベルの理論の紹介)
6. エミール・ジャック＝ダルクローズのリトミックについて
7. 子どもたちの聴音能力の伸長について(リトミックとの関連で)
8. 子どもたちのリズム感覚の伸長について(リトミックとの関連で)
9. 子どもたちの創作についての能力の伸長について(リトミックとの関連で)
10. ゾルタン・コダーイのコダーイ・メソッドについて
11. 子どもたちの歌唱能力の伸長について(コダーイ・メソッドとの関連で)
12. カール・オルフのオルフ・シュールベルクについて
13. 子どもたちの器楽的能力の伸長について(オルフのメソッドとの関連で)
14. 日本で実践されている音楽教育メソッドについて
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

毎回それまで学習した内容に関する小テストを行うため、キーワードを中心に前回の講義の復習をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加態度、レポートの内容を総合的に検討して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で逐次紹介します。

◆参考図書◆

ロバート・エイブラムソン他『音楽教育メソッドの比較』全音楽譜出版社、1994年

◆留意事項◆

授業への参加態度および出席を重視します。

ナンバリング	ECL012N		
科目名	幼児音楽教育講義B		
科目詳細			
担当教員	神原 雅之		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-212	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

幼児期の音楽教育における基本的事項について理解し、その内容と方法について理解することができる。そして、現代的に抱えている課題を多角的な視点で捉えることができる。

◆授業内容・計画◆

幼児を取り巻くさまざまな事象(大人や子ども、地域、社会、環境、時代など)との多様な関係性を読み取る。そのために、本講では、さまざまな事象や情報を点として見るのではなく、立体的な視点で捉える。取りあげる内容は次の通り。

- (1)遺伝と環境
- (2)初期の音楽行動とスキルの発達
- (3)環境と音楽
- (4)障害を持つ子どもと音楽
- (5)ノードフ=ロビンスの音楽療法
- (6)障害を持つ子どもと音楽:みみをすます
- (7)モンテッソーリと音楽教育
- (8)わらべ歌と遊び(1)
- (9)わらべ歌と遊び(2)
- (10)創造的音楽作り
- (11)スズキメソード
- (12)唱歌と童謡
- (13)メディアの音楽と子ども
- (14)音楽教育と評価
- (15)まとめ

◆準備学習の内容◆

各講で取り扱うテーマについて、各自、事前の予備学習を行い授業に臨むこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業(発表や討議)への積極的な参加、課題の提出、最終試験の内容を総合的に吟味して評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

教育芸術社編『歌はともだち(4訂版)』(教育芸術社)

◆参考図書◆

授業中に逐次紹介する。

◆留意事項◆

時間厳守。

ナンバリング	ECS018N		
科目名	音楽教育演習(リトミック) I		
科目詳細			
担当教員	伊藤 仁美		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	火5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

リトミックはスイスの音楽教育家、J=ダルクローズ(1865～ 1950)が創案した、リズム・動きを通して音楽を理解し、心身の調和を図る音楽教育方法である。本授業では実践を通して「音楽と動き」の結びつきを学ぶと共に、身体活動を通して育む、幼児の音楽表現の重要性についても探っていくことを目的とする。

◆授業内容・計画◆

- (1)ガイダンス(授業参加の心得)
- (2)リトミックについて(音楽と動きの結びつき)
- (3)基礎的な音符①(手を叩く)
- (4)基礎的な音符②(歩く、走る)
- (5)基礎的な音符③(歩く、走る、止まる、ポーズづくり)
- (6)基礎的な音符④(ギャロップ、スキップ)
- (7)中間実技試験
- (8)様々な音楽の要素①(拍、拍子)
- (9)様々な音楽の要素②(アクセント)
- (10)様々な音楽の要素③(音の高低)
- (11)様々な音楽の要素④(音の強弱、長短)
- (12)音楽に即した振り付け創作①(ピアノ曲のコレオグラフィー)
- (13)音楽に即した振り付け創作②(オーケストラ曲のコレオグラフィー)
- (14)音楽に即した振り付け創作③(ボディパーカッション)
- (15)発表とまとめ

◆準備学習の内容◆

毎回の授業を意欲的に参加すること。
遅刻、欠席はしないこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への意欲、関心、態度・・・60%
授業内での試験、発表・・・40%

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内で資料を適宜配布。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

動きやすい服装で参加すること。スカートは認めない。
底の薄いシューズ着用か、裸足で授業参加のこと。

ナンバリング	ECS019N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	井上 恵理		
学年	1年,2年,3年	クラス	01
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	木1	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

リトミックは20世紀初、スイスの音楽教育家エミール・ジャック=ダルクローズが創案した「音(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)を関連づけた総合的な音楽教育」である。音楽、舞踊、演劇、子どもからおとなまで、表現の分野に広く展開されている。「動きから音、音から動き」という両方のプロセスを通し、人と響きあう心と身体をつくることを目標とする。リトミックを幼児教育に導入した小林宗作氏の考えを学ぶ。授業のまとめとして、学んだことグループ創作として生かし、幼児教育DAYで発表する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス ダルクローズリトミックについて
- 第2回 空間と聴覚 (サウンドスケープ)
- 第3回 身体の知覚(呼吸 声 緊張と弛緩)
- 第4回 時間・空間・エネルギー
- 第5回 身体の中のリズム 拍(ビート)と速さ
- 第6回 身体は楽器 どのような音が生み出せるか探し出す
- 第7回 ことばから音楽へ (ことばのもつリズム・旋律)
- 第8回 弾みと流れ(拍とフレーズ)ボールやスカーフ、布、
ゴムなどをつかって体感しよう。
- 第9回 身近な素材で音楽活動
- 第10回 幼児教育とリトミック 小林宗作を知る(1)
- 第11回 幼児教育とリトミック 小林宗作を知る(2)
- 第12回 音と動きのアンサンブル グループ創作(1)
- 第13回 音と動きのアンサンブル グループ創作(2)
- 第14回 音と動きのアンサンブル グループ創作(3)
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

グループ課題については 積極的、自主的にグループで事前に準備をして授業にのぞむこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆参考図書◆

『体を楽器にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり！リトミック77選』 神原雅之 編著 (明治図書)
『ダルクローズのリトミック』
エリザベス・バンドウレスパー 著 石丸由理訳
(ドレミ楽譜出版社)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MML001N		
科目名	音楽情報を読み解くI		
科目詳細			
担当教員	野中 映		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

音楽のさまざまなジャンルについて皆で調べてゆきます。自分で選んだジャンルを、図書館の文献、視聴覚資料、インターネット等を通して調査し、その結果をプレゼンテーションという形で公表します。

◆授業内容・計画◆

- 1 調査の方法、ジャンルの選択
- 2 プレゼンテーションの例・1(グレゴリオ聖歌を予定)
- 3 プレゼンテーションの例・2(モード・ジャズを予定)
- 4 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・1(例えばヒップホップ)
- 5 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・2(例えばアルゼンチン・タンゴ)
- 6 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・3(例えばプログレッシブ・ロック)
- 7 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・4(例えばハワイアン・ミュージック)
- 8 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・5(例えばブルース)
- 9 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・6(例えばパンク・ロック)
- 10 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・7(例えばクール・ジャズ)
- 11 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・8(例えば演歌)
- 12 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・9(例えばダンドゥット)
- 13 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・10(例えばフォルクローレ)
- 14 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・11(例えばジュジュ・ミュージック)
- 15 プレゼンテーションについての総括

◆準備学習の内容◆

図書館の文献、視聴覚資料を有効に活用してください。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

各回のプレゼンテーションの内容
質疑応答の参加状況

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

『音楽ジャンルって何だろう』みつとみ俊郎(新潮社)

◆留意事項◆

ナンバリング	MML001N		
科目名	音楽情報を読み解くI		
科目詳細			
担当教員	野中 映		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

音楽のさまざまなジャンルについて皆で調べてゆきます。自分で選んだジャンルを、図書館の文献、視聴覚資料、インターネット等を通して調査し、その結果をプレゼンテーションという形で公表します。

◆授業内容・計画◆

- 1 調査の方法、ジャンルの選択
- 2 プレゼンテーションの例・1(グレゴリオ聖歌を予定)
- 3 プレゼンテーションの例・2(モード・ジャズを予定)
- 4 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・1(例えばヒップホップ)
- 5 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・2(例えばアルゼンチン・タンゴ)
- 6 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・3(例えばプログレッシブ・ロック)
- 7 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・4(例えばハワイアン・ミュージック)
- 8 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・5(例えばブルース)
- 9 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・6(例えばパンク・ロック)
- 10 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・7(例えばクール・ジャズ)
- 11 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・8(例えば演歌)
- 12 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・9(例えばダンドゥット)
- 13 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・10(例えばフォルクローレ)
- 14 ジャンルについてのプレゼンテーションと質疑応答・11(例えばジュジュ・ミュージック)
- 15 プレゼンテーションについての総括

◆準備学習の内容◆

図書館の文献、視聴覚資料を有効に活用してください。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

各回のプレゼンテーションの内容
質疑応答の参加状況

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

『音楽ジャンルって何だろう』みつとみ俊郎(新潮社)

◆留意事項◆

ナンバリング	MML002N		
科目名	音楽情報を読み解くⅡ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- 音楽学という学問の対象について、西洋音楽の研究を中心に、基本的な事柄が分かるようになる。
- 日本語の文章を精読し、その内容を的確にまとめ、他者にわかりやすく発表できるようになる。

◆授業内容・計画◆

あらかじめ分担を決め、学生の発表を中心に進める。発表のあとには、全員参加によってディスカッションを行う。

○各回の予定

- 第1回 導入
- 第2回 西洋古代と中世の音楽論
- 第3回 近世人文主義の音楽論
- 第4回 ザルリーノの音楽理論
- 第5回 近代の芸術音楽論
- 第6回 二十世紀初頭の音楽理論
- 第7回 音楽的時間論
- 第8回 存在意義の視点からの音楽研究
- 第9回 資料研究の基本問題
- 第10回 楽曲分析を基礎とする研究
- 第11回 オペラと効果の美学
- 第12回 音楽解釈学
- 第13回 現代における絵画と音楽
- 第14回 サウンドスケープ論
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回、指定されたテキストを全員が必ず精読してくること。
- ・発表の担当者は、レジユメを用意すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表の内容、ディスカッションへの参加、レポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

『音楽学を学ぶ人のために』根岸一美・三浦信一郎編(世界思想社)
* 絶版のため、該当箇所をプリントとして配布する。

◆参考図書◆

内容に応じて指示する。

◆留意事項◆

毎回、自分が発表するというくらいの気持ちでテキストをしっかりと読み込んでから授業に臨んで欲しい。それを踏まえた上でディスカッションに参加する姿勢も重視する。

ナンバリング	MML002N		
科目名	音楽情報を読み解くⅡ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- 音楽学という学問の対象について、西洋音楽の研究を中心に、基本的な事柄が分かるようになる。
- 日本語の文章を精読し、その内容を的確にまとめ、他者にわかりやすく発表できるようになる。

◆授業内容・計画◆

あらかじめ分担を決め、学生の発表を中心に進める。発表のあとには、全員参加によってディスカッションを行う。

○各回の予定

- 第1回 導入
- 第2回 西洋古代と中世の音楽論
- 第3回 近世人文主義の音楽論
- 第4回 ザルリーノの音楽理論
- 第5回 近代の芸術音楽論
- 第6回 二十世紀初頭の音楽理論
- 第7回 音楽的時間論
- 第8回 存在意義の視点からの音楽研究
- 第9回 資料研究の基本問題
- 第10回 楽曲分析を基礎とする研究
- 第11回 オペラと効果の美学
- 第12回 音楽解釈学
- 第13回 現代における絵画と音楽
- 第14回 サウンドスケープ論
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・毎回、指定されたテキストを全員が必ず精読してくること。
- ・発表の担当者は、レジユメを用意すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表の内容、ディスカッションへの参加、レポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

『音楽学を学ぶ人のために』根岸一美・三浦信一郎編(世界思想社)
* 絶版のため、該当箇所をプリントとして配布する。

◆参考図書◆

内容に応じて指示する。

◆留意事項◆

毎回、自分が発表するというくらいの気持ちでテキストをしっかりと読み込んでから授業に臨んで欲しい。それを踏まえた上でディスカッションに参加する姿勢も重視する。

ナンバリング	MML014N		
科目名	楽器・音響講義 I		
科目詳細			
担当教員	森 太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

波動としての音の性質を理解する。

◆授業内容・計画◆

聴衆の耳に達する「音」とは、空気中を伝搬してくる空気の圧力の変動である。演奏者によって作り出されたこの「音」が聴取者の聴覚器官に届き、大脳で知覚され、感動を与えるわけである。従って演奏者が自分の意図を聴取者に伝えようと思ったら、音が伝達される過程全てに関心を持つべきであろう。さらにその音を人間の聴覚がどのように受け取り、どう感じとっているかを学ぶことも必要である。本講義では、これらの観点から楽器音響学の基礎を理解することを目的とし、具体的な例を元に解説して行く。講義の中では音のサンプルを多く示し、各自の耳で確かめながら学んでゆく。パソコンを使用することもある。

- 1 音とは
- 2 波の性質
- 3 音波の性質
- 4 音の伝播
- 5 聴覚系のしくみ
- 6 音の重ね合わせ
- 7 音の重ね合わせと楽器の音
- 8 まとめと評価
- 9 音の大きさ
- 10 音の大きさの相対単位
- 11 音の高さ
- 12 音の高さの相対単位
- 13 楽器音の性質(1)減衰振動
- 14 楽器音の性質(2)自励振動
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

前回までの内容を復習しておくこと。
また事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

中間試験または中間レポート40%、期末試験50%、積極性など授業への貢献度10%

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

『音のなんでも小事典』、日本音響学会編(講談社)

◆留意事項◆

グループワークを含むので、指定座席に着席すること。
定期試験の成績により追加のレポートを課すことがあるので、掲示に注意すること。

ナンバリング	MML015N		
科目名	楽器・音響講義Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	森 太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	5-202	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

波動としての音の性質を理解する。

◆授業内容・計画◆

聴衆の耳に達する「音」とは、空气中を伝搬してくる空気の変動である。演奏者によって作り出されたこの「音」が聴取者の聴覚器官に届き、大脳で知覚され、感動を与えるわけである。従って演奏者が自分の意図を聴取者に伝えようと思ったら、音が伝達される過程全てに関心を持つべきであろう。さらにその音を人間の聴覚がどのように受け取り、どう感じとっているかを学ぶことも必要である。本講義では、これらの観点から楽器音響学の基礎を理解することを目的とし、具体的な例を元に解説して行く。講義の中では音のサンプルを多く示し、各自の耳で確かめながら学んでゆく。パソコンを使用することもある。

講義計画

- 1 アナログとデジタル(1)基礎
- 2 アナログとデジタル(2)n進法の変換
- 3 デジタルの利点
- 4 デジタルの欠点
- 5 デジタル化の実際(1)基礎
- 6 デジタル化の実際(2)音声のデジタル化
- 7 デジタル化の実際(3)信号処理
- 8 まとめと評価
- 9 聴覚の基礎
- 10 両耳効果
- 11 人間の聞こえ
- 12 フーリエ変換とは
- 13 音波に含まれていない周波数の音の知覚
- 14 音の遮蔽
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

前回までの内容を復習しておくこと。
また事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

中間試験または中間レポート40%、期末試験50%、積極性など授業への貢献度10%

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

『音のなんでも小事典』、日本音響学会編(講談社)

◆留意事項◆

グループワークを含むので、指定座席に着席すること。
定期試験の成績により追加のレポートを課すことがあるので、掲示に注意すること。

ナンバリング	MMS017N		
科目名	楽器製作演習 I		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

共鳴の原理を理解し、楽器を作成する。

◆授業内容・計画◆

オルゴール共鳴箱の製作実習を通じて、ヘルムホルツ共鳴の原理を学ぶ。また、基本的な工具の使い方に慣れる。

- 1 スケッチ
- 2 ヘルムホルツ共鳴とは
- 3 設計
- 4 製図
- 5 墨入
- 6 木取
- 7 仮組み
- 8 まとめと評価
- 9 デザイン
- 10 鉛筆書き
- 12 彫刻
- 13 塗装
- 14 表面仕上げ
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート、完成作品を総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

特に指定しない。

◆留意事項◆

受講希望人数によっては調整をすることがあります。(楽器製作・音響コース進学希望者を優先します。) 演習が主ですので、遅刻・欠席は厳禁です。

ナンバリング	MMS017N		
科目名	楽器製作演習 I		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

共鳴の原理を理解し、楽器を作成する。

◆授業内容・計画◆

オルゴール共鳴箱の製作実習を通じて、ヘルムホルツ共鳴の原理を学ぶ。また、基本的な工具の使い方に慣れる。

- 1 スケッチ
- 2 ヘルムホルツ共鳴とは
- 3 設計
- 4 製図
- 5 墨入
- 6 木取
- 7 仮組み
- 8 まとめと評価
- 9 デザイン
- 10 鉛筆書き
- 12 彫刻
- 13 塗装
- 14 表面仕上げ
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート、完成作品を総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

特に指定しない。

◆留意事項◆

受講希望人数によっては調整をすることがあります。(楽器製作・音響コース進学希望者を優先します。) 演習が主ですので、遅刻・欠席は厳禁です。

ナンバリング	MMS017N		
科目名	楽器製作演習 I		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

共鳴の原理を理解し、楽器を作成する。

◆授業内容・計画◆

オルゴール共鳴箱の製作実習を通じて、ヘルムホルツ共鳴の原理を学ぶ。また、基本的な工具の使い方に慣れる。

- 1 スケッチ
- 2 ヘルムホルツ共鳴とは
- 3 設計
- 4 製図
- 5 墨入
- 6 木取
- 7 仮組み
- 8 まとめと評価
- 9 デザイン
- 10 鉛筆書き
- 12 彫刻
- 13 塗装
- 14 表面仕上げ
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート、完成作品を総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

特に指定しない。

◆留意事項◆

受講希望人数によっては調整をすることがあります。(楽器製作・音響コース進学希望者を優先します。) 演習が主ですので、遅刻・欠席は厳禁です。

ナンバリング	MMS017N		
科目名	楽器製作演習 I		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

共鳴の原理を理解し、楽器を作成する。

◆授業内容・計画◆

オルゴール共鳴箱の製作実習を通じて、ヘルムホルツ共鳴の原理を学ぶ。また、基本的な工具の使い方に慣れる。

- 1 スケッチ
- 2 ヘルムホルツ共鳴とは
- 3 設計
- 4 製図
- 5 墨入
- 6 木取
- 7 仮組み
- 8 まとめと評価
- 9 デザイン
- 10 鉛筆書き
- 12 彫刻
- 13 塗装
- 14 表面仕上げ
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート、完成作品を総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

特に指定しない。

◆留意事項◆

受講希望人数によっては調整をすることがあります。(楽器製作・音響コース進学希望者を優先します。) 演習が主ですので、遅刻・欠席は厳禁です。

ナンバリング	MMS018N		
科目名	楽器製作演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

カリンバを作成する。

◆授業内容・計画◆

カリンバの製作実習を通じて、発音と共鳴の原理を学ぶ。また、基本的な工具の使い方に慣れる。

- 1 スケッチ
- 2 共鳴と音の関係
- 3 設計
- 4 製図
- 5 墨入
- 6 木取
- 7 仮組み
- 8 まとめと評価
- 9 デザイン
- 10 鉛筆書き
- 12 彫刻
- 13 塗装
- 14 表面仕上げ
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート、完成作品を総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

特に指定しない。

◆留意事項◆

受講希望人数によっては調整をすることがあります。(楽器製作・音響コース進学希望者を優先します。) 演習が主ですので、遅刻・欠席は厳禁です。

ナンバリング	MMS018N		
科目名	楽器製作演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

カリンバを作成する。

◆授業内容・計画◆

カリンバの製作実習を通じて、発音と共鳴の原理を学ぶ。また、基本的な工具の使い方に慣れる。

- 1 スケッチ
- 2 共鳴と音の関係
- 3 設計
- 4 製図
- 5 墨入
- 6 木取
- 7 仮組み
- 8 まとめと評価
- 9 デザイン
- 10 鉛筆書き
- 12 彫刻
- 13 塗装
- 14 表面仕上げ
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート、完成作品を総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

特に指定しない。

◆留意事項◆

受講希望人数によっては調整をすることがあります。(楽器製作・音響コース進学希望者を優先します。) 演習が主ですので、遅刻・欠席は厳禁です。

ナンバリング	MMS018N		
科目名	楽器製作演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

カリンバを作成する。

◆授業内容・計画◆

カリンバの製作実習を通じて、発音と共鳴の原理を学ぶ。また、基本的な工具の使い方に慣れる。

- 1 スケッチ
- 2 共鳴と音の関係
- 3 設計
- 4 製図
- 5 墨入
- 6 木取
- 7 仮組み
- 8 まとめと評価
- 9 デザイン
- 10 鉛筆書き
- 12 彫刻
- 13 塗装
- 14 表面仕上げ
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート、完成作品を総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

特に指定しない。

◆留意事項◆

受講希望人数によっては調整をすることがあります。(楽器製作・音響コース進学希望者を優先します。) 演習が主ですので、遅刻・欠席は厳禁です。

ナンバリング	MMS018N		
科目名	楽器製作演習Ⅱ		
科目詳細			
担当教員			
学年		クラス	02
講義室		開講学期	
曜日・時限		単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

カリンバを作成する。

◆授業内容・計画◆

カリンバの製作実習を通じて、発音と共鳴の原理を学ぶ。また、基本的な工具の使い方に慣れる。

- 1 スケッチ
- 2 共鳴と音の関係
- 3 設計
- 4 製図
- 5 墨入
- 6 木取
- 7 仮組み
- 8 まとめと評価
- 9 デザイン
- 10 鉛筆書き
- 12 彫刻
- 13 塗装
- 14 表面仕上げ
- 15 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

事前に配布する資料をよく読んでおくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

レポート、完成作品を総合評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

特に指定しない。

◆参考図書◆

特に指定しない。

◆留意事項◆

受講希望人数によっては調整をすることがあります。(楽器製作・音響コース進学希望者を優先します。) 演習が主ですので、遅刻・欠席は厳禁です。

ナンバリング	MML007N		
科目名	音楽情報研究法 I		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)、音楽学研究コースの3～4年生、ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・学生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全7回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教員発表(1)
- 第3回 教員発表(2)
- 第4回 文献紹介1(学部4年生)
- 第5回 文献紹介2(学部4年生)
- 第6回 文献紹介3(修士課程1年生)
- 第7回 文献紹介4(修士課程2年生)

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏え、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表・平常点(ディスカッション)・期末レポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MML007N		
科目名	音楽情報研究法 I		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)、音楽学研究コースの3～4年生、ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・学生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全7回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教員発表(1)
- 第3回 教員発表(2)
- 第4回 文献紹介1(学部4年生)
- 第5回 文献紹介2(学部4年生)
- 第6回 文献紹介3(修士課程1年生)
- 第7回 文献紹介4(修士課程2年生)

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏え、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表・平常点(ディスカッション)・期末レポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MML007N		
科目名	音楽情報研究法 I		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)、音楽学研究コースの3～4年生、ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・学生には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全7回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 教員発表(1)
- 第3回 教員発表(2)
- 第4回 文献紹介1(学部4年生)
- 第5回 文献紹介2(学部4年生)
- 第6回 文献紹介3(修士課程1年生)
- 第7回 文献紹介4(修士課程2年生)

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏え、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表・平常点(ディスカッション)・期末レポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

特になし。

◆参考図書◆

適宜、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MML008N		
科目名	音楽情報研究法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)、音楽学研究コースの3～4年生、ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程(2年生以上)は修論プロスペクト、音楽学研究コース(4年生以上)は卒論プロスペクトの発表、大学院修士過程(1年生)には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第2回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第3回 卒論プロスペクト1(3名)
- 第4回 卒論プロスペクト2(2名)
- 第5回 教員発表(3)
- 第6回 教員発表(4)
- 第7回 教員発表(5)
- 第8回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏え、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表・平常点(ディスカッション)・期末レポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MML008N		
科目名	音楽情報研究法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)、音楽学研究コースの3～4年生、ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程(2年生以上)は修論プロスペクト、音楽学研究コース(4年生以上)は卒論プロスペクトの発表、大学院修士過程(1年生)には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第2回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第3回 卒論プロスペクト1(3名)
- 第4回 卒論プロスペクト2(2名)
- 第5回 教員発表(3)
- 第6回 教員発表(4)
- 第7回 教員発表(5)
- 第8回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏え、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表・平常点(ディスカッション)・期末レポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MML008N		
科目名	音楽情報研究法Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	沼口 隆		
学年	1年,3年	クラス	01
講義室	5-309	開講学期	後期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

音楽学における様々な考え方や研究方法について知るとともに、それに関して適確な発表をしたり、ディスカッションに参加したりできるようになる。

◆授業内容・計画◆

- ・修士課程の大学院生(音楽学)、音楽学研究コースの3～4年生、ならびに音楽情報専修の学生の合同で開講される。
- ・大学院修士課程(2年生以上)は修論プロスペクト、音楽学研究コース(4年生以上)は卒論プロスペクトの発表、大学院修士過程(1年生)には文献紹介が課される。
- ・音楽学の教員ならびにゲスト講師が持ち回りで研究発表を行い、これに基づいてディスカッションを行う。
- ・原則として隔週で開講し、全8回を予定している。

○各回の概要(予定)

- 第1回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第2回 修論プロスペクトと文献紹介(各1名)
- 第3回 卒論プロスペクト1(3名)
- 第4回 卒論プロスペクト2(2名)
- 第5回 教員発表(3)
- 第6回 教員発表(4)
- 第7回 教員発表(5)
- 第8回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- ・自分の発表にあたっては、レジュメの作成方法等を踏え、十分に準備をして臨むこと。
- ・次回発表者から参考文献や、予め聴いておくべき楽曲などが指定された場合には、きちんと予習しておくこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表・平常点(ディスカッション)・期末レポート。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

適時、指示する。

◆留意事項◆

- ・初回に「年間日程・発表者・発表題目」を配布する。
- ・ゲスト講師の都合によって日程が変更される場合があるので注意すること。
- ・積極的に発言すること。

ナンバリング	MML011N		
科目名	音楽情報を集める I		
科目詳細			
担当教員	久保田 慶一		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-202	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- ①音楽情報の種類や特性を理解して、適切な媒体を使って、検索できるようになる。
- ②ひとつのテーマを設定し、テーマに関連した音楽情報を収集し、関連する文献や音源などを整理できる。

◆授業内容・計画◆

- 第1回:音楽情報の種類と特性
- 第2回:音楽事典の種類と特性
- 第3回:音楽事典の項目を調べる
- 第4回:音楽論文の種類と特性
- 第5回:音楽論文の検索方法(図書館実習)
- 第6回:音楽文献の種類と特性
- 第7回:音楽文献の検索方法(図書館実習)
- 第8回:音響・映像の種類と特性
- 第9回:音響・映像の検索方法(図書館実習)
- 第10回:テーマの設定方法
- 第11回:テーマの講評会(グループ学習)
- 第12回:テーマ関連データの個人発表会(その1)
- 第13回:テーマ関連データの個人発表会(その2)
- 第14回:今後の研究をするにあたって
- 第15回:まとめ

◆準備学習の内容◆

毎時間、課外学習の課題を出すので、次の授業にレポートを提出する。レポート作成に2時間程度を要する課題を出す。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業での発表内容やプレゼンテーションの工夫を評価する。(50%)
また最終的に関連データ表を提出し、その整理状況を判断する。(30%)
毎授業の提出レポート(20%)

◆教科書(使用テキスト)◆

久保田慶一:音楽の文章セミナー(音楽之友社)
初回の授業で入手方法を指示する。

◆参考図書◆

随時、指摘す。

◆留意事項◆

特になし

ナンバリング	MML012N		
科目名	音楽情報を集めるⅡ		
科目詳細			
担当教員	横井 雅子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-302	開講学期	後期
曜日・時限	火4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

この授業では、文化的事象としての音楽を考察していく上で基本となる知識や考え方、情報の集め方を学ぶことができます。内容としては音楽民族学、日本音楽史などを扱った各種文章や著作と、そこに記されていることを詳しく検証できる方法を学べます。ここで学ぶことは研究領域が拡大し、奥行きをもつようになった音楽研究全体にかかわることですので、講義題目に書かれた分野以外の研究に興味をもっている学生にも受講を勧めます。

◆授業内容・計画◆

第1回：音楽情報を集め、活用する。音楽文化の領域から

第2回：櫻井哲男他編『諸民族の音楽を学ぶ人のために』（世界思想社）①音楽と環境をめぐるテーマ

第3回：『諸民族の音楽を学ぶ人のために』②音楽と地域をめぐるテーマ（アジア）

第4回：『諸民族の音楽を学ぶ人のために』③音楽と地域をめぐるテーマ（アフリカ）③日本の音楽をめぐるテーマ

第5回：『諸民族の音楽を学ぶ人のために』④日本の音楽をめぐるテーマ

第6回：小西潤子他編『音楽文化のすすめ』（ナカニシヤ出版）①歴史と地域を横断する音楽をめぐるテーマ

第7回：『音楽文化のすすめ』②グローバル化する音楽をめぐるテーマ①日本の事例

第8回：『音楽文化のすすめ』③グローバル化する音楽をめぐるテーマ②世界の事例

第9回：渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学』（春秋社）①伝承と保存の力学

第10回：『サウンドとメディアの文化資源学』②境界線上のレコード・メディア

第11回：『サウンドとメディアの文化資源学』③「環境の音」の文化

第12回：『サウンドとメディアの文化資源学』④「環境の音」の音文化を経験する

第13回：音楽情報を集める「実践編」受講者発表①

第14回：音楽情報を集める「実践編」受講者発表②

第15回：まとめ

◆準備学習の内容◆

授業の進め方としては、該当箇所は全員が読んで、予習しておくこと。各回の担当者を決めてプレゼンテーションを行った後、受講者の間で討論を行うことにします。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への参加度、担当箇所の発表の内容、および期末のレポートの3つから総合的に評価します。なお、期末のレポートでは上記の文献とは別の著書からの課題を課す予定です。

◆教科書(使用テキスト)◆

櫻井哲男、水野信男編『諸民族の音楽を学ぶ人のために』（世界思想社、2005）

小西潤子、仲万美子、志村哲編『音楽文化のすすめ』（ナカニシヤ出版、2007）

渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学』（春秋社、2013）

いずれも抜粋して使用するため、購入しなくてもかまいません。なお、受講者の人数と進度に応じて、上記のテキストのほかにも随時、テキストを追加します。

◆参考図書◆

◆留意事項◆

音楽の情報を読み解くためには地道な努力が求められます。継続的に、丹念に読み、分からないところはそのままにしておかない、ということに尽きます。きちんと出席し、授業に積極的に参加してください。
内容についての質問は授業時以外でもいつでも応じます。

ナンバリング	MEL001N		
科目名	音楽教育講義A		
科目詳細	1EA		
担当教員	塩原 麻里, 江崎 公子		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-219	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- (1)音楽教育の基礎・基本について理解する。
- (2)体験を通して、音楽教育の諸理論の理解を深める。
- (3)日本の近代から現代にかけての音楽教育の歴史を理解する。
- (4)歴史的・社会的諸条件と音楽・教育の双方向的な関係を理解する。

- (1)(2)は塩原が担当する。
- (3)(4)は江崎が担当する。

◆授業内容・計画◆

(1)(2)

1. オリエンテーション: 音楽教育の目的と意義
2. うたうこと
3. 共に奏でること
4. 音・音楽をつくること
5. 音・音楽を聴くこと
6. 音楽を教えることとは?
7. 音楽教育の基礎・基本について

(3)(4)

8. 近代日本の音楽教育のはじまり: 伊澤修二と音楽取調掛
9. 近代日本の音楽教育のはじまり: 小学唱歌集と祝日大祭日唱歌
10. 「君が代」の成立と変遷①種々の楽曲
11. 「君が代」の成立と変遷②和歌披講譜と墨譜
12. 唱歌科から芸能科音楽へ: 教科統合の意味と音楽の内容
13. 唱法の変遷①音名と階名
14. 唱法の変遷②移動ド唱法
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

配布された資料等は事前に読み、整理して、次の授業に備える。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

- (1)(2)レポート。その他随時課題を出す。授業内発表、ディスカッションへの参加状況等についても評価する。
 - (3)(4)定期試験により評価。
- これらを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。

◆参考図書◆

随時、授業内で提示する。

◆留意事項◆

授業は2つのクラスに分かれて、各担当者により1. から7. 、8. から14. という2つのシリーズで行われる。1つのクラスは、この順番通りに授業を受ける。もう1つのクラスは8. から14. を先に受講してから1. から7. の授業を受ける。

授業内でのディスカッション等に積極的に参加できるよう、気が付いたことをメモするなどして、その内容について考え、自分なりの意見をまとめておく。

ナンバリング	MEL001N		
科目名	音楽教育講義A		
科目詳細	1EB		
担当教員	江崎 公子, 塩原 麻里		
学年	1年	クラス	02
講義室	5-211	開講学期	後期
曜日・時限	月1	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

- (1)音楽教育の基礎・基本について理解する。
- (2)体験を通して、音楽教育の諸理論の理解を深める。
- (3)日本の近代から現代にかけての音楽教育の歴史を理解する。
- (4)歴史的・社会的諸条件と音楽・教育の双方向的な関係を理解する。

- (1)(2)は塩原が担当する。
- (3)(4)は江崎が担当する。

◆授業内容・計画◆

(1)(2)

1. オリエンテーション: 音楽教育の目的と意義
2. うたうこと
3. 共に奏でること
4. 音・音楽をつくること
5. 音・音楽を聴くこと
6. 音楽を教えることとは?
7. 音楽教育の基礎・基本について

(3)(4)

8. 近代日本の音楽教育のはじまり: 伊澤修二と音楽取調掛
9. 近代日本の音楽教育のはじまり: 小学唱歌集と祝日大祭日唱歌
10. 「君が代」の成立と変遷①種々の楽曲
11. 「君が代」の成立と変遷②和歌披講譜と墨譜
12. 唱歌科から芸能科音楽へ: 教科統合の意味と音楽の内容
13. 唱法の変遷①音名と階名
14. 唱法の変遷②移動ド唱法
15. まとめ

◆準備学習の内容◆

配布された資料等は事前に読み、整理して、次の授業に備える。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

- (1)(2)レポート。その他随時課題を出す。授業内発表、ディスカッションへの参加状況等についても評価する。
 - (3)(4)定期試験により評価。
- これらを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

随時、プリント資料を配布する。

◆参考図書◆

随時、授業内で提示する。

◆留意事項◆

授業は2つのクラスに分かれて、各担当者により1. から7. 、8. から14. という2つのシリーズで行われる。1つのクラスは、この順番通りに授業を受ける。もう1つのクラスは8. から14. を先に受講してから1. から7. の授業を受ける。

授業内でのディスカッション等に積極的に参加できるよう、気が付いたことをメモするなどして、その内容について考え、自分なりの意見をまとめておく。

ナンバリング	MEL004N		
科目名	音楽教育講義D		
科目詳細			
担当教員	江崎 公子		
学年	2年	クラス	O1
講義室	3-B16	開講学期	前期
曜日・時限	水4	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

学校における音楽科教育のなかでも教科書について、その内容や目的について理解する。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 音楽科教科書の成立
- 第2回 諸外国の音楽科教科書
- 第3回 東アジア・南アジアの音楽科教科書
- 第4回 図書館における音楽科教科書の検索
- 第5回 グループによる諸外国の音楽科教科書についての討論
- 第6回 グループによる東南アジア・南アジアの音楽科教科書についての討論
- 第7回 グループによるまとめ
- 第8回 グループによるまとめの発表
- 第9回 学習指導要領と教科書
- 第10回 現行の日本の音楽科教科書
- 第11回 グループによる日本の音楽科教科書の内容研究
- 第12回 グループによる日本の音楽科教科書についての討論会
- 第13回 グループによる日本の音楽科教科書についてのまとめ
- 第14回 グループによる日本の音楽科教科書についての発表
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

発表はグループで行うため、グループ内での連絡を密にすること。事前に提示された課題は準備すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

発表内容及び期末テストにより総合的に判断する。

◆教科書(使用テキスト)◆

『音楽科の学習指導』国立音楽大学
『小学校学習指導要領解説音楽編』文部科学省
『中学校学習指導要領解説音楽編』文部科学省
『高等学校学習指導要領解説芸術編』文部科学省
中学校音楽の教科書(教育出版社、教育芸術社)

◆参考図書◆

適宜、指示する。

◆留意事項◆

特に無し

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES005N		
科目名	音楽教育演習(合唱) I		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを実感できる。

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (パート分け・係り、グループ等決定)
- 第2回 発声のメカニズムを考察する～実践へ
- 第3回 パート分け再確認～ハーモニー
- 第4回 合唱演習(1)宗教曲について
- 第5回 合唱演習(2)ラテン語について
- 第6回 合唱演習(3)キリエ
- 第7回 合唱演習(4)グローリア
- 第8回 合唱演習(5)あじさい
- 第9回 合唱演習(6)子供の為の作品
- 第10回 合唱演習(7)スタンダードコーラス
- 第11回 合唱演習(8)サンクトゥス
- 第12回 合唱演習(9)ベネディクトゥス
- 第13回 合唱演習(10)アニュス・デイ
- 第14回 合唱演習(11)ミサ通し演奏
- 第15回 前期まとめ

◆準備学習の内容◆

テキスト以外に、様々なジャンルから沢山の作品を取り上げるので、必要に応じて、各自 曲の確認をすること。

毎回、呼吸・発声 等々テーマ別に様々な連続性を要する実技を展開していくので、確認作業をすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常の授業への取り組みにより評価する。

授業への積極的な参加(インスペクター・パートリーダー・ピアニスト・グループリーダー等々)も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他、随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女A		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES006N		
科目名	音楽教育演習(合唱)Ⅱ		
科目詳細	1E女B		
担当教員	小林 祐太郎		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-128	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

なるべく多くの合唱作品に触れ、使用言語・作曲年代・様式感といった多様性を感じながら、合唱の持つ魅力を知り、おおいにアンサンブルを楽しむことができる。

真の自分の声を見つけ出し、表現する喜びを感じることができる。

<合唱のタベ>に向け、集中力を高め、効果的な表現方法を皆で探究する。

多くの仲間と共に、ステージを創り上げていく難しさと、素晴らしさを体験し、歌うことの喜びを感じることができる。
『皆で歌えば、心愉し！！』

◆授業内容・計画◆

ここでは、中心となる内容のみを記入するものとする。

- 第1回 オリエンテーション (<合唱のタベ>を含む後期内容の伝達と展望)
- 第2回 合唱演習(1)ハレルヤを読む
- 第3回 合唱演習(2)ハレルヤを歌う
- 第4回 合唱演習(3)なんでかな?
- 第5回 合唱演習(4)プロポーズ
- 第6回 合唱演習(5)アヴェヴェルムコルプス
- 第7回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ ほっといてんか
- 第8回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ こんやく
- 第9回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ だれや!?
- 第10回 <合唱のタベ> に向けプログラム仕上げ プログラム通し
- 第11回 <合唱のタベ>を終えて
- 第12回 合唱演習(7)クリスマスソングメドレー 冬の歌
- 第13回 合唱演習(8)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー導入
- 第14回 合唱演習(9)クリスマスソングメドレー クリスマスメドレー通し演奏
- 第15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

前期で得た、呼吸・発声・等々の“歌う為のヒント”を各自がアレンジし、日々の生活の中に取り入れ、実践すること。
<合唱のタベ>に向け、プログラム内の作品の注意点を練習すること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

平常授業への取り組みにより評価する。

<合唱のタベ>への積極的な参加も、おおいに評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

女声合唱による <ジャズミサ> (ボブ チルコット)
(オックスフォード出版社版)

ヘンデル「ハレルヤ」(《メサイヤ》より)
三澤寿喜著、全音

その他随時様々なジャンルより配布

◆参考図書◆

◆留意事項◆

毎回 発声をはじめ、関連性ある様々な課題への展開をしていくので、時間厳守で出席のこと。

ナンバリング	MES009N		
科目名	音楽教育演習(合奏) I		
科目詳細	1EA		
担当教員	瀧口 亮介		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

学校音楽科教育における合奏とは学習者に音楽を形づくっている諸要素とその働きを捉えさせる重要な学習の一つとして位置づく。その視点に立ちながら、既存のアンサンブル教材の分析と実演を行い、音楽科指導の手立てを探る。

◆授業内容・計画◆

- 1回 ボディーパーカッション『ジョイフルコンビネーション』
- 2回 アルトリコーダー 幹音の練習『少年時代』
- 3回 アルトリコーダー 派生音の練習『ロマンス』
- 4回 アルトリコーダー ドリア旋法『シャンソネッタデスカ』
- 5回 アルトリコーダー 即興的な演奏『D dorian』
- 6回 アルトリコーダー call and responseによる連環合奏
- 7回 合奏の指揮 4分の4拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『歌劇「魔弾の射手」序曲から』『ロンドンデリーの歌』
- 8回 合奏の指揮 4分の3拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『誕生』『牧人の歌』
- 9回 合奏の指揮 8分の6拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『愛の喜び』『春の日の花と輝く』
- 10回 合奏の指揮 4分の2拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『ソナチネ(1)』
- 11回 『ソナチネ(1)』の合奏練習
- 12回 『ソナチネ(1)』の合奏 試験
- 13回 『ソナチネ(2)』の合奏指揮練習
- 14回 『ソナチネ(2)』の合奏指揮 試験
- 15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- (1) 本授業で使用する自分のアルトリコーダーがバロック式であるか点検をする(ジャーマン式の場合には新たにバロック式の楽器を購入すること)。
- (2) 小・中・高等学校時代の器楽学習を振り返り、教科書等を通して運指法を確認しておく。
- (3) リコーダー経験のない者は購入と同時に教科書等を利用して楽器の構造面、表現的な特徴、などを調べておく。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

演奏の成果による成績評価

◆教科書(使用テキスト)◆

『アルトリコーダー曲集』編集者・教芸音楽研究グループ
 発行者・(株)教育芸術社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

受講者はバロック式アルトリコーダーを用意する。

ナンバリング	MES009N		
科目名	音楽教育演習(合奏) I		
科目詳細	1EA		
担当教員	瀧口 亮介		
学年	1年	クラス	O1
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

学校音楽科教育における合奏とは学習者に音楽を形づくっている諸要素とその働きを捉えさせる重要な学習の一つとして位置づく。その視点に立ちながら、既存のアンサンブル教材の分析と実演を行い、音楽科指導の手立てを探る。

◆授業内容・計画◆

- 1回 ボディーパーカッション『ジョイフルコンビネーション』
- 2回 アルトリコーダー 幹音の練習『少年時代』
- 3回 アルトリコーダー 派生音の練習『ロマンス』
- 4回 アルトリコーダー ドリア旋法『シャンソネッタデスカ』
- 5回 アルトリコーダー 即興的な演奏『D dorian』
- 6回 アルトリコーダー call and responseによる連環合奏
- 7回 合奏の指揮 4分の4拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『歌劇「魔弾の射手」序曲から』『ロンドンデリーの歌』
- 8回 合奏の指揮 4分の3拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『誕生』『牧人の歌』
- 9回 合奏の指揮 8分の6拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『愛の喜び』『春の日の花と輝く』
- 10回 合奏の指揮 4分の2拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『ソナチネ(1)』
- 11回 『ソナチネ(1)』の合奏練習
- 12回 『ソナチネ(1)』の合奏 試験
- 13回 『ソナチネ(2)』の合奏指揮練習
- 14回 『ソナチネ(2)』の合奏指揮 試験
- 15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- (1) 本授業で使用する自分のアルトリコーダーがバロック式であるか点検をする(ジャーマン式の場合には新たにバロック式の楽器を購入すること)。
- (2) 小・中・高等学校時代の器楽学習を振り返り、教科書等を通して運指法を確認しておく。
- (3) リコーダー経験のない者は購入と同時に教科書等を利用して楽器の構造面、表現的な特徴、などを調べておく。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

演奏の成果による成績評価

◆教科書(使用テキスト)◆

『アルトリコーダー曲集』編集者・教芸音楽研究グループ
 発行者・(株)教育芸術社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

受講者はバロック式アルトリコーダーを用意する。

ナンバリング	MES009N		
科目名	音楽教育演習(合奏) I		
科目詳細	1EB		
担当教員	瀧口 亮介		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

学校音楽科教育における合奏とは学習者に音楽を形づくっている諸要素とその働きを捉えさせる重要な学習の一つとして位置づく。その視点に立ちながら、既存のアンサンブル教材の分析と実演を行い、音楽科指導の手立てを探る。

◆授業内容・計画◆

- 1回 ボディーパーカッション『ジョイフルコンビネーション』
- 2回 アルトリコーダー 幹音の練習『少年時代』
- 3回 アルトリコーダー 派生音の練習『ロマンス』
- 4回 アルトリコーダー ドリア旋法『シャンソネッタデスカ』
- 5回 アルトリコーダー 即興的な演奏『D dorian』
- 6回 アルトリコーダー call and responseによる連環合奏
- 7回 合奏の指揮 4分の4拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『歌劇「魔弾の射手」序曲から』『ロンドンデリーの歌』
- 8回 合奏の指揮 4分の3拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『誕生』『牧人の歌』
- 9回 合奏の指揮 8分の6拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『愛の喜び』『春の日の花と輝く』
- 10回 合奏の指揮 4分の2拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『ソナチネ(1)』
- 11回 『ソナチネ(1)』の合奏練習
- 12回 『ソナチネ(1)』の合奏 試験
- 13回 『ソナチネ(2)』の合奏指揮練習
- 14回 『ソナチネ(2)』の合奏指揮 試験
- 15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- (1) 本授業で使用する自分のアルトリコーダーがバロック式であるか点検をする(ジャーマン式の場合には新たにバロック式の楽器を購入すること)。
- (2) 小・中・高等学校時代の器楽学習を振り返り、教科書等を通して運指法を確認しておく。
- (3) リコーダー経験のない者は購入と同時に教科書等を利用して楽器の構造面、表現的な特徴、などを調べておく。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

演奏の成果による成績評価

◆教科書(使用テキスト)◆

『アルトリコーダー曲集』編集者・教芸音楽研究グループ
 発行者・(株)教育芸術社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

受講者はバロック式アルトリコーダーを用意する。

ナンバリング	MES009N		
科目名	音楽教育演習(合奏) I		
科目詳細	1EB		
担当教員	瀧口 亮介		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-135	開講学期	前期
曜日・時限	月5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

学校音楽科教育における合奏とは学習者に音楽を形づくっている諸要素とその働きを捉えさせる重要な学習の一つとして位置づく。その視点に立ちながら、既存のアンサンブル教材の分析と実演を行い、音楽科指導の手立てを探る。

◆授業内容・計画◆

- 1回 ボディーパーカッション『ジョイフルコンビネーション』
- 2回 アルトリコーダー 幹音の練習『少年時代』
- 3回 アルトリコーダー 派生音の練習『ロマンス』
- 4回 アルトリコーダー ドリア旋法『シャンソネッタデスカ』
- 5回 アルトリコーダー 即興的な演奏『D dorian』
- 6回 アルトリコーダー call and responseによる連環合奏
- 7回 合奏の指揮 4分の4拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『歌劇「魔弾の射手」序曲から』『ロンドンデリーの歌』
- 8回 合奏の指揮 4分の3拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『誕生』『牧人の歌』
- 9回 合奏の指揮 8分の6拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『愛の喜び』『春の日の花と輝く』
- 10回 合奏の指揮 4分の2拍子 拍頭及び裏拍の予備運動『ソナチネ(1)』
- 11回 『ソナチネ(1)』の合奏練習
- 12回 『ソナチネ(1)』の合奏 試験
- 13回 『ソナチネ(2)』の合奏指揮練習
- 14回 『ソナチネ(2)』の合奏指揮 試験
- 15回 まとめ

◆準備学習の内容◆

- (1) 本授業で使用する自分のアルトリコーダーがバロック式であるか点検をする(ジャーマン式の場合には新たにバロック式の楽器を購入すること)。
- (2) 小・中・高等学校時代の器楽学習を振り返り、教科書等を通して運指法を確認しておく。
- (3) リコーダー経験のない者は購入と同時に教科書等を利用して楽器の構造面、表現的な特徴、などを調べておく。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

演奏の成果による成績評価

◆教科書(使用テキスト)◆

『アルトリコーダー曲集』編集者・教芸音楽研究グループ
 発行者・(株)教育芸術社

◆参考図書◆

◆留意事項◆

受講者はバロック式アルトリコーダーを用意する。

ナンバリング	MES010N		
科目名	音楽教育演習(合奏)Ⅱ		
科目詳細	1EA		
担当教員	新谷 祥子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

各種打楽器に触れ、教育の現場で活用していく技能を身につけるための基本授業となる。
特に身体の適応方法、打つや振るといった基本的な動きを学習し、教育の場で欠かせない打楽器の役割、そして世界のパーカッションへの関心を深めていく。

◆授業内容・計画◆

- ①授業進行にともなうオリエンテーション
- ②トーキングドラム
- ③ハンドドラムと身体の適応
- ④小物打楽器の魅力
- ⑤リズムと音色の関係から奏法作り
- ⑥音楽室の打楽器～基本
- ⑦音楽室の打楽器～応用
- ⑧マーチングの打楽器1(リズム作り)
- ⑨マーチングの打楽器2(動きと応用)
- ⑩ラテンパーカッション
- ⑪アフリカンパーカッション
- ⑫鍵盤打楽器と親しむ
- ⑬鍵盤打楽器アンサンブル
- ⑭和太鼓の導入
- ⑮レポート提出/まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で推薦された図書、視聴覚資料などを積極的に事前自主学習に含むことを提案する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席重視ではあるが、授業内における課題への取り組みかたと授業内レポートを総合的に評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

多様な打楽器の扱い、重い楽器移動を考慮し、安全で動きやすい服装とシューズの着用とする。

ナンバリング	MES010N		
科目名	音楽教育演習(合奏)Ⅱ		
科目詳細	1EA		
担当教員	新谷 祥子		
学年	1年	クラス	01
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

各種打楽器に触れ、教育の現場で活用していく技能を身につけるための基本授業となる。
特に身体の適応方法、打つや振るといった基本的な動きを学習し、教育の場で欠かせない打楽器の役割、そして世界のパーカッションへの関心を深めていく。

◆授業内容・計画◆

- ①授業進行にともなうオリエンテーション
- ②トーキングドラム
- ③ハンドドラムと身体の適応
- ④小物打楽器の魅力
- ⑤リズムと音色の関係から奏法作り
- ⑥音楽室の打楽器～基本
- ⑦音楽室の打楽器～応用
- ⑧マーチングの打楽器1(リズム作り)
- ⑨マーチングの打楽器2(動きと応用)
- ⑩ラテンパーカッション
- ⑪アフリカンパーカッション
- ⑫鍵盤打楽器と親しむ
- ⑬鍵盤打楽器アンサンブル
- ⑭和太鼓の導入
- ⑮レポート提出/まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で推薦された図書、視聴覚資料などを積極的に事前自主学習に含むことを提案する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席重視ではあるが、授業内における課題への取り組みかたと授業内レポートを総合的に評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

多様な打楽器の扱い、重い楽器移動を考慮し、安全で動きやすい服装とシューズの着用とする。

ナンバリング	MES010N		
科目名	音楽教育演習(合奏)Ⅱ		
科目詳細	1EB		
担当教員	新谷 祥子		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

各種打楽器に触れ、教育の現場で活用していく技能を身につけるための基本授業となる。
特に身体の適応方法、打つや振るといった基本的な動きを学習し、教育の場で欠かせない打楽器の役割、そして世界のパーカッションへの関心を深めていく。

◆授業内容・計画◆

- ①授業進行にともなうオリエンテーション
- ②トーキングドラム
- ③ハンドドラムと身体の適応
- ④小物打楽器の魅力
- ⑤リズムと音色の関係から奏法作り
- ⑥音楽室の打楽器～基本
- ⑦音楽室の打楽器～応用
- ⑧マーチングの打楽器1(リズム作り)
- ⑨マーチングの打楽器2(動きと応用)
- ⑩ラテンパーカッション
- ⑪アフリカンパーカッション
- ⑫鍵盤打楽器と親しむ
- ⑬鍵盤打楽器アンサンブル
- ⑭和太鼓の導入
- ⑮レポート提出/まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で推薦された図書、視聴覚資料などを積極的に事前自主学習に含むことを提案する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席重視ではあるが、授業内における課題への取り組みかたと授業内レポートを総合的に評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

多様な打楽器の扱い、重い楽器移動を考慮し、安全で動きやすい服装とシューズの着用とする。

ナンバリング	MES010N		
科目名	音楽教育演習(合奏)Ⅱ		
科目詳細	1EB		
担当教員	新谷 祥子		
学年	1年	クラス	02
講義室	N-030	開講学期	後期
曜日・時限	水4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

各種打楽器に触れ、教育の現場で活用していく技能を身につけるための基本授業となる。
特に身体の適応方法、打つや振るといった基本的な動きを学習し、教育の場で欠かせない打楽器の役割、そして世界のパーカッションへの関心を深めていく。

◆授業内容・計画◆

- ①授業進行にともなうオリエンテーション
- ②トーキングドラム
- ③ハンドドラムと身体の適応
- ④小物打楽器の魅力
- ⑤リズムと音色の関係から奏法作り
- ⑥音楽室の打楽器～基本
- ⑦音楽室の打楽器～応用
- ⑧マーチングの打楽器1(リズム作り)
- ⑨マーチングの打楽器2(動きと応用)
- ⑩ラテンパーカッション
- ⑪アフリカンパーカッション
- ⑫鍵盤打楽器と親しむ
- ⑬鍵盤打楽器アンサンブル
- ⑭和太鼓の導入
- ⑮レポート提出／まとめ

◆準備学習の内容◆

授業内で推薦された図書、視聴覚資料などを積極的に事前自主学習に含むことを提案する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

出席重視ではあるが、授業内における課題への取り組みかたと授業内レポートを総合的に評価。

◆教科書(使用テキスト)◆

なし。

◆参考図書◆

授業内で指示。

◆留意事項◆

多様な打楽器の扱い、重い楽器移動を考慮し、安全で動きやすい服装とシューズの着用とする。

ナンバリング	MES013N		
科目名	音楽教育演習(リトミック) I		
科目詳細	1EA		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	O1
講義室	3-107	開講学期	前期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

リトミックは20世紀初、スイスの音楽教育家エミール・ジャック＝ダルクローズが創案した「音(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)と空間を関連づけた総合的な音楽教育」であるリトミックを演習形式で学ぶ。
音楽をよく聴き、感じて、表現できる音楽的な身体をつくる。
グループでの即興をとおして、自分の想いを伝え、また、他人の想いを受け止めることができるコミュニケーション能力を高める。
音楽の諸要素と身体の関係を知る。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス ダルクローズリトミックについて
- 第2回 空間と聴覚 (サウンドスケープ)
- 第3回 身体の知覚 (呼吸 声 緊張と弛緩)
- 第4回 時間・空間・エネルギー(1)
- 第5回 時間・空間・エネルギー(2)
- 第6回 歩行を通じた音楽要素の理解
- 第7回 音楽の要素と身体の関係(1)拍 ビート テンポ
- 第9回 音楽の要素と身体の関係(2)ダイナミクス
- 第10回 音楽の要素と身体の関係(3)拍子 フレーズ
- 第11回 ピアノで遊ぼう 即興演奏(1)「
- 第12回 ピアノで遊ぼう 即興演奏(2)
- 第13回 身体は楽器 アンサンブル創作(1)
- 第14回 身体は楽器 アンサンブル創作(2)
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を、他の学科科目や術科にリンクさせて考え、応用できる学習姿勢を希望する。
グループワークの課題については、授業前に自主的、積極的にグループで準備して授業にのぞむ。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組み、課題の発表、定期試験、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「窓際のトットちゃん」黒柳徹子 (講談社文庫)
その他、授業内に資料配布

◆参考図書◆

- 「リトミックでつくる楽しい音楽授業」井上恵理 酒井美恵子著 (明治図書)
- 「ダルクローズのリトミック」エリザベス・バンドゥレスパー著 石丸由理訳 (ドレミ出版社)
- 「体を楽器にした表現 リズム&ゲームにどっぷり!リトミック77選」神原雅之編著 (明治図書)
- 「トットちゃんの先生 小林宗作抄伝」佐野和彦(話の特集)
- 「リズム・インサイド」神原雅之編著
- 「リズムと音楽と教育」E.J.=ダルクローズ(全音楽譜出版社)
- 「リトミック・芸術と教育」E.J.=ダルクローズ(全音楽譜出版社)
- 「エミール・ジャック＝ダルクローズ」フランクマルタン(全音楽譜出版社)
- 「リトミック研究の現在(いま)」日本ダルクローズ音楽教育学会(開成出版)
- 「リトミック実践の現在(いま)」日本ダルクローズ音楽教育学会(開成出版)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MES013N		
科目名	音楽教育演習(リトミック) I		
科目詳細	1EB		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	O2
講義室	6-201	開講学期	前期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

リトミックは20世紀初、スイスの音楽教育家エミール・ジャック＝ダルクローズが創案した「音(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)と空間を関連づけた総合的な音楽教育」であるリトミックを演習形式で学ぶ。
音楽をよく聴き、感じて、表現できる音楽的な身体をつくる。
グループでの即興をとおして、自分の想いを伝え、また、他人の想いを受け止めることができるコミュニケーション能力を高める。
音楽の諸要素と身体の関係を知る。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス ダルクローズリトミックについて
- 第2回 空間と聴覚 (サウンドスケープ)
- 第3回 身体の知覚 (呼吸 声 緊張と弛緩)
- 第4回 時間・空間・エネルギー(1)
- 第5回 時間・空間・エネルギー(2)
- 第6回 歩行を通じた音楽要素の理解
- 第7回 音楽の要素と身体の関係(1)拍 ビート テンポ
- 第9回 音楽の要素と身体の関係(2)ダイナミクス
- 第10回 音楽の要素と身体の関係(3)拍子 フレーズ
- 第11回 ピアノで遊ぼう 即興演奏(1)「
- 第12回 ピアノで遊ぼう 即興演奏(2)
- 第13回 身体は楽器 アンサンブル創作(1)
- 第14回 身体は楽器 アンサンブル創作(2)
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を、他の学科科目や術科にリンクさせて考え、応用できる学習姿勢を希望する。
グループワークの課題については、授業前に自主的、積極的にグループで準備して授業にのぞむ。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

毎回の授業への取り組み、課題の発表、定期試験、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「窓際のトットちゃん」黒柳徹子 (講談社文庫)
その他、授業内に資料配布

◆参考図書◆

- 「リトミックでつくる楽しい音楽授業」井上恵理 酒井美恵子著 (明治図書)
- 「ダルクローズのリトミック」エリザベス・バンドゥレスパー著 石丸由理訳 (ドレミ出版社)
- 「体を楽器にした表現 リズム&ゲームにどっぷり!リトミック77選」神原雅之編著 (明治図書)
- 「トットちゃんの先生 小林宗作抄伝」佐野和彦(話の特集)
- 「リズム・インサイド」神原雅之編著
- 「リズムと音楽と教育」E.J.=ダルクローズ(全音楽譜出版社)
- 「リトミック・芸術と教育」E.J.=ダルクローズ(全音楽譜出版社)
- 「エミール・ジャック＝ダルクローズ」フランクマルタン(全音楽譜出版社)
- 「リトミック研究の現在(いま)」日本ダルクローズ音楽教育学会(開成出版)
- 「リトミック実践の現在(いま)」日本ダルクローズ音楽教育学会(開成出版)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MES014N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅱ		
科目詳細	1EA		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

- ・音楽教育演習(リトミック)Ⅰで学んだことを基礎にして、さらに実践と考察を深める。
- ・音楽に敏感に反応する「筋肉運動感覚」と「内的聴覚」を育てる。
- ・音楽の諸要素を、身体活動を通して学習するダルクローズの方法論を実践をとおして理解する。
- ・後期では、音楽作品を身体化する活動をとおして、ダルクローズの理論を活かした、音楽鑑賞、音楽分析を実践する。
- ・創造的な活動、アンサンブルの力を伸ばしていく。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 前期のふりかえりと復習
- 第2回 音楽の要素と身体の関係 (1)フレーズ
- 第3回 音楽の要素と身体の関係 (2)アナクルーシス
- 第4回 音楽の要素と身体の関係 (3)バイナリービート
- 第5回 音楽の要素と身体の関係 (4)ターナリービート
- 第6回 音楽の要素と身体の関係 (5)旋律
- 第7回 音楽の要素と身体の関係 (6)2声の流れ
- 第8回 音楽の要素と身体の関係 (7)和声
- 第9回 音楽鑑賞と身体活動(1)音楽作品の身体化 導入
- 第10回 音楽鑑賞と身体活動(2)音楽作品身体化 展開
- 第11回 即興表現 導入
- 第12回 即興表現 展開
- 第13回 身体は楽器 アンサンブル創作(1)導入
- 第14回 身体は楽器 アンサンブル創作(2)展開
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を、他の学科科目や術科科目にリンクさせて考え、応用できる学習姿勢を希望する。

グループ課題については、自主的、積極的に、授業前に準備して臨むことを希望する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「窓際のトットちゃん」黒柳徹子著 講談社文庫

◆参考図書◆

『体を楽器にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり!リトミック77選』神原雅之 編著 (明治図書)

『ダルクローズのリトミック』
エリザベス・バンドウレスパー著 石丸由理訳
(ドレミ楽譜出版社)

『リズムと音楽と教育』E.J=ダルクローズ著(全音楽譜出版社)

◆**留意事項**◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MES014N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅱ		
科目詳細	1EA		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-107	開講学期	後期
曜日・時限	木4	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

リトミックは20世紀初、スイスの音楽教育家エミール・ジャック=ダルクローズが創案した「音(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)を関連づけた総合的な音楽教育」である。音楽、舞踊、演劇、子どもからおとなまで、表現の分野に広く展開されている。「動きから音、音から動き」という両方のプロセスを通し、人と響きあう心と身体をつくることを目標とする。

リトミックを幼児教育に導入した小林宗作氏の考えを学ぶ。

授業のまとめとして、学んだことグループ創作として生かし、幼児教育DAYで発表する。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス ダルクローズリトミックについて

第2回 空間と聴覚 (サウンドスケープ)

第3回 身体の知覚(呼吸 声 緊張と弛緩)

第4回 時間・空間・エネルギー

第5回 身体の中のリズム 拍(ビート)と速さ

第6回 身体は楽器 どのような音が生み出せるか探し出す

第7回 ことばから音楽へ (ことばのもつリズム・旋律)

第8回 弾みと流れ(拍とフレーズ)ボールやスカーフ、布、 ゴムなどをつかって体感しよう。

第9回 身近な素材で音楽活動

第10回 幼児教育とリトミック 小林宗作を知る(1)

第11回 幼児教育とリトミック 小林宗作を知る(2)

第12回 音と動きのアンサンブル グループ創作(1)

第13回 音と動きのアンサンブル グループ創作(2)

第14回 音と動きのアンサンブル グループ創作(3)

第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

グループ課題については 積極的、自主的にグループで事前に準備をして授業にのぞむこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「窓際のトットちゃん」黒柳徹子著 講談社文庫

◆参考図書◆

『体を楽器にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり!リトミック77選』神原雅之 編著 (明治図書)

『ダルクローズのリトミック』

エリザベス・バンドゥレスパー 著 石丸由理訳

(ドレミ楽譜出版社)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MES014N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅱ		
科目詳細	1EB		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	02
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

- ・音楽教育演習(リトミック)Ⅰで学んだことを基礎にして、さらに実践と考察を深める。
- ・音楽に敏感に反応する「筋肉運動感覚」と「内的聴覚」を育てる。
- ・音楽の諸要素を、身体活動を通して学習するダルクローズの方法論を実践をとおして理解する。
- ・後期では、音楽作品を身体化する活動をとおして、ダルクローズの理論を活かした、音楽鑑賞、音楽分析を実践する。
- ・創造的な活動、アンサンブルの力を伸ばしていく。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 前期のふりかえりと復習
- 第2回 音楽の要素と身体の関係 (1)フレーズ
- 第3回 音楽の要素と身体の関係 (2)アナクルーシス
- 第4回 音楽の要素と身体の関係 (3)バイナリービート
- 第5回 音楽の要素と身体の関係 (4)ターナリービート
- 第6回 音楽の要素と身体の関係 (5)旋律
- 第7回 音楽の要素と身体の関係 (6)2声の流れ
- 第8回 音楽の要素と身体の関係 (7)和声
- 第9回 音楽鑑賞と身体活動(1)音楽作品の身体化 導入
- 第10回 音楽鑑賞と身体活動(2)音楽作品身体化 展開
- 第11回 即興表現 導入
- 第12回 即興表現 展開
- 第13回 身体は楽器 アンサンブル創作(1)導入
- 第14回 身体は楽器 アンサンブル創作(2)展開
- 第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

この授業で得た「気づき」を、他の学科科目や術科科目にリンクさせて考え、応用できる学習姿勢を希望する。

グループ課題については、自主的、積極的に、授業前に準備して臨むことを希望する。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「窓際のトットちゃん」黒柳徹子著 講談社文庫

◆参考図書◆

『体を楽器にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり!リトミック77選』神原雅之 編著 (明治図書)

『ダルクローズのリトミック』
エリザベス・バンドウレスパー著 石丸由理訳
(ドレミ楽譜出版社)

『リズムと音楽と教育』E.J=ダルクローズ著(全音楽譜出版社)

◆**留意事項**◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MES014N		
科目名	音楽教育演習(リトミック)Ⅱ		
科目詳細	1EB		
担当教員	井上 恵理		
学年	1年	クラス	02
講義室	6-201	開講学期	後期
曜日・時限	金5	単位数	1単位
備考			

◆授業目標◆

リトミックは20世紀初、スイスの音楽教育家エミール・ジャック=ダルクローズが創案した「音(聴覚)と動き(筋肉運動感覚)を関連づけた総合的な音楽教育」である。音楽、舞踊、演劇、子どもからおとなまで、表現の分野に広く展開されている。「動きから音、音から動き」という両方のプロセスを通し、人と響きあう心と身体をつくることを目標とする。

リトミックを幼児教育に導入した小林宗作氏の考えを学ぶ。

授業のまとめとして、学んだことグループ創作として生かし、幼児教育DAYで発表する。

◆授業内容・計画◆

第1回 ガイダンス ダルクローズリトミックについて

第2回 空間と聴覚 (サウンドスケープ)

第3回 身体の知覚(呼吸 声 緊張と弛緩)

第4回 時間・空間・エネルギー

第5回 身体の中のリズム 拍(ビート)と速さ

第6回 身体は楽器 どのような音が生み出せるか探し出す

第7回 ことばから音楽へ (ことばのもつリズム・旋律)

第8回 弾みと流れ(拍とフレーズ)ボールやスカーフ、布、 ゴムなどをつかって体感しよう。

第9回 身近な素材で音楽活動

第10回 幼児教育とリトミック 小林宗作を知る(1)

第11回 幼児教育とリトミック 小林宗作を知る(2)

第12回 音と動きのアンサンブル グループ創作(1)

第13回 音と動きのアンサンブル グループ創作(2)

第14回 音と動きのアンサンブル グループ創作(3)

第15回 まとめと評価

◆準備学習の内容◆

グループ課題については 積極的、自主的にグループで事前に準備をして授業にのぞむこと。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業への取り組み、課題の発表、レポートなどを総合的に評価する。

◆教科書(使用テキスト)◆

「窓際のトットちゃん」黒柳徹子著 講談社文庫

◆参考図書◆

『体を楽器にした音楽表現 リズム&ゲームにどっぷり!リトミック77選』神原雅之 編著 (明治図書)

『ダルクローズのリトミック』

エリザベス・バンドゥレスパー 著 石丸由理訳

(ドレミ楽譜出版社)

◆留意事項◆

動きやすい服装、底の薄い靴(素足が望ましい)で参加すること

ナンバリング	MTL001U		
科目名	音楽療法講義 I		
科目詳細			
担当教員	阪上 正巳		
学年	1年	クラス	O1
講義室	5-302	開講学期	前期
曜日・時限	月3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

音楽療法の世界への入門として、この治療法に関する総論的内容を理解する。また音楽療法各論のうち、精神科、高齢者、緩和ケア、一般医療領域の理論と方法を学習する。

◆授業内容・計画◆

- (1)オリエンテーション
- (2)音楽療法の定義
- (3)音楽療法の歴史
- (4)音楽療法の現状1(日本)
- (5)音楽療法の現状2(諸外国)
- (6)音楽療法の分類
- (7)音楽療法の適応領域
- (8)音楽の治療的作用
- (9)音楽療法士の専門能力
- (10)音楽療法士の倫理
- (11)精神科領域の音楽療法
- (12)高齢者に対する音楽療法
- (13)緩和ケア領域の音楽療法
- (14)一般医療現場における音楽療法
- (15)まとめと評価

◆準備学習の内容◆

参考図書の該当部分を読んで予習しておく

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

学期末筆記試験

◆教科書(使用テキスト)◆

授業内でその都度提示する

◆参考図書◆

飯森真樹雄・阪上正巳(編):芸術療法実践講座4 音楽療法、岩崎学術出版社
 デッカー＝フォイクト、他(阪上正巳、他訳):音楽療法事典・新訂版、人間と歴史社
 ブルーシア編(酒井智華、他訳):音楽療法ケーススタディ(上・下)、音楽之友社
 阪上正巳:精神の病いと音楽 ースキゾフレニア・生命・自然ー、廣済堂出版
 村井靖児:音楽療法の基礎、音楽之友社

◆留意事項◆

私語を慎む。授業内容についての質問や討論は歓迎

ナンバリング	MTL002U		
科目名	音楽療法講義Ⅱ		
科目詳細			
担当教員	蔭山 真美子		
学年	1年	クラス	01
講義室	3-B16	開講学期	後期
曜日・時限	水3	単位数	2単位
備考			

◆授業目標◆

さまざまな対象領域における音楽療法について、その概要を理解する。授業では、視覚的教材を通して音楽療法への理解を深めると同時に音楽療法についての具体的なイメージを持つ。グループ発表には主体的に参加をする。

◆授業内容・計画◆

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 音楽療法実践のプロセスについて
- 第3回 音楽療法の対象領域
- 第4回 障害について
- 第5回 乳幼児対象の音楽療法
- 第6回 児童対象の音楽療法
- 第7回 海外の音楽療法
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 院内学級について
- 第10回 成人対象の音楽療法
- 第11回 視覚障害者への音楽療法
- 第12回 肢体不自由、重複障害者への音楽療法
- 第13回 ターミナルケアにおける音楽療法①カナダのホスピス
- 第14回 ターミナルケアにおける音楽療法②日本のホスピス
- 第15回 評価とまとめ

◆準備学習の内容◆

発表に関する準備(特にグループ発表)は、時間をとりしっかりとすること。

◆課題等◆

◆成績評価の方法◆

授業内レポートによる。
授業への積極的な参加態度も重視する。

◆教科書(使用テキスト)◆

◆参考図書◆

遠山文吉編著「知的障害のある子どもへの音楽療法ー子どもを生き生きさせる音楽の力」明治図書
村井靖児著「音楽療法の基礎」音楽之友社

◆留意事項◆

理由なしに遅刻、欠席をしないこと。